



1 3 和やかな雰囲気の中、丁寧に読み上げます 2 読み方やイントネーションなどを確認し合う皆さん。録音のつど話し合い、正しい情報を徹底します 4 図を分かりやすく説明するため、広報紙に直接書きこんでいきます 5 「録音中」という手作りの看板がかかった録音室

特集 『好き』が誰かの笑顔に 一声の広報—

皆さんのお手元に毎月届く広報きくようはお伝えしたい情報が盛りだくさん。しかし、冊子のままではまちの大切な情報を知ることができない人がいます。菊陽町には、そんな人たちのために、大好きな朗読で町の情報をお伝えしている皆さんがいました。

(左から)後藤タヨさん、別府重子さん、安松由野さん、上野明子さん、黒田鈴子さん、矢野直美さん

伝わるぬくもり 声の広報お届けします



毎月発行する広報きくようや議会だよりなどの内容を録音したカセットテープを盲人用郵便でご自宅にお届けします。家族や友人、ご近所で必要としている視覚障がいの方はいませんか。詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ
菊陽町ボランティアセンター
☎(232)4824

音訳ボランティアと
音声データ編集ボラン
ティアも募集中です!

菊陽町社会福祉協議会
なんば ゆきこ
難波 由紀子さん

声の抑揚やアクセント、間の取り方に気を付け、漢字や数字の読み方も聞きやすく分かりやすい工夫をしているという皆さん。「例えば、数字のゼロはレイと読むほうが聞きやすいんです。予算に出てくる『公債費』と『交際費』も読みは同じ。聞いた人が理解できるように前後で意味を話しています」

俳句は間を開けることで余韻を残し、写真は情景が分かるよう具体的に説明するなど細部までこだわっています。「表やグラフ、写真は見る人にとっては分かりやすくても、聞く人にはただ読むだけでは分からないからです。会員それぞれの感性を大切に、聞いた人がイメージでき

奥深い朗読の魅力

設立してことしで23年になり、現在、会員は6人。皆さん「朗読が好き」と口をそろえます。66歳から入会し、以来20年間一度も休んだこと

好きだから続けられる

「リ」スナーの皆さんこんにちは。広報きくよう9月号をお届けします。菊陽町福祉支援センター2階の録音室にしっかりと落ち着いた声が響きます。目の不自由な人のために広報きくようや議会だよりなどをボランティアで朗読する「うぐいすの会」の皆さんです。

声の広報を届けて23年



広報きくようを丁寧に読み上げる後藤タヨさんは会員になってことしで20年。「朗読は生きがい」と話します

るように読んでいます。朗読は奥深いです」

うぐいすおばあよろこ

「昔はうぐいす嬢だったのかもしれないけれど、今は『うぐいすおばあね』と笑う皆さん。現在、利用者は2人と少ないため、利用者が増えることを願っています。「弱視の人や広報紙を読む時間がない人も利用してもらえたら。聞きづらいとか、もうちょっとゆつくりとか早くとか、要望を聞ける機会もあればよかったですね」

努力を重ね、好きな朗読を通してまちの情報を届けるうぐいすの会の皆さん。テープの最後はいたわりの言葉で締めくくります。「皆さんお体大切に。次にお目にかかるまでさきげんよう」

利用しませんか

補装具の修理・交付

身体障害者手帳を持つ視覚に障がいのある人の障がいを補うための用具(補装具)を紹介します。費用は世帯の所得で変わります。条件や申請書類など、詳しくはお問い合わせください。

種類	対象者
盲人安全つえ	視覚障がい
義眼(普通義眼、特殊義眼、コンタクト義眼)	
眼鏡(矯正眼鏡、遮光眼鏡、コンタクトレンズ、弱視眼鏡)	

■申し込み・問い合わせ
福祉課 ☎(232)4913

日常生活を便利に

日常生活用具給付事業

身体障害者手帳を持つ視覚に障がいのある人が利用できる用具の一部を紹介します。費用は世帯の所得で変わります。条件や申請書類など詳しくはお問い合わせください。

種類	対象者
盲人用体温計・体重計	身体障害者手帳を持つ視覚障害2級以上の人
盲人用時計	
点字器	
点字タイプライター	
ポータブルレコーダー	
活字文書読上装置	身体障害者手帳を持つ人
拡大読書器	



本町にお住まいの障がいのある人が安心して暮らせるために、さまざまなサービスを盛り込んだ「障がい福祉ガイドブック」。町ホームページでダウンロードでき、福祉課でもお渡ししています

■申し込み・問い合わせ
福祉課 ☎(232)4913

ボランティアコーディネーターの声を聞きました



菊陽町社会福祉協議会
わたせ こうしろう
渡瀬 功史郎さん

菊陽町ボランティアセンターは、ボランティアしたい人と求めている人をつないでいます。ボランティアとは「できることをできるしこやること」です。地域や人のためになり、新たに人とのつながりも生まれます。

熊本地震では、たくさんの方が瓦やブロック、家の中の片付けなどをしてくれました。依頼者から「自分一人ではできないようなことも、ボランティアの皆さんのおかげで解決できた。ありがとう」という声をたくさんいただきました。皆さんの力が、誰かの笑顔につながるのです。ボランティアは特別なものではありません。趣味や特技を生かして施設や地域で踊りを披露したり、演奏したり。知識や経験を生かして地域のために活動したりすることもボランティアです。役場や社会福祉協議会だけでは解決できないことも、多くの人が力を合わせればできることがあります。

菊陽町ボランティアセンターでは、活動の支援や養成講座を開催しています。性別、年齢に関係なく、多くの人や団体に登録してほしいです。活動の幅が広がれば、多様なニーズに応えられます。11月12日(土)のすぎなみフェスタ2016にも活躍できるボランティアがいますよ。気軽にお問い合わせください。

■問い合わせ 菊陽町ボランティアセンター ☎(232)4824

人と人をつなぐ
できることを
できるしこ

今回、好きな朗読を通して、まちの情報をお届けしている「うぐいすの会」の皆さんを紹介しました。「好きなことが他の人のためになることがうれしい」と話していた皆さん。ボランティアだからと肩肘を張り、難しく考える必要はないのかもしれない。好きだと思ふこと、今までの経験、知識が誰かの笑顔につながる。地震が発生したときもマッサージや読み聞かせ、子どもと遊ぶなどさまざまな支援の手が差し伸べられました。自分の持っている力でいろんなことができるのかもしれない。皆さんも『好き』で誰かを笑顔にしてみませんか。

『好き』で誰かを笑顔に

気持ちと温かみが伝わる

仕事しながら聞けるので便利です

去年、菊陽町社会福祉協議会の職員に聞いて、テープの存在を知りました。広報きくようではまちのわだいや人のうごき、特集、おめでたが好きです。9月号の夏まつりや野菜の特集も面白かったです。表紙の写真も浴衣姿の女の子が笑っている、約2万7千人が来場した、など具体的だったのでイメージしやすかったです。イベント情報はテープを聞いて知ることもあります。去年はすぎなみフェスタに行き、買い

物をして楽しく過ごしました。

住んでいるからには、まちのことを知りたいです。朗読は仕事や家事をしながら聞けるので便利です。ただ、テープだと巻き戻すのにも限度があるのでCDだともっといいなと思います。うぐいすの会の皆さんは、読み方や発音もよく、一生懸命努力していることが分かります。とても感謝しています。それぞれ個性もあり、気持ちと温かみが伝わりますね。



いちばら まさはる
市原 政春さん
(下原)

趣味は柔道と音楽鑑賞で仕事は訪問マッサージ。アマチュア無線3級の資格を持ち、今はパソコン講座に通っているそうです。

声を受け取る人に 朗読の良さを聞きました

「今度は何だろうな」と毎月楽しみ

今の菊陽町を知れます



おおたけ さつみ
大竹 サツキさん
(下津久礼)

ラジオで野球や演劇を聞くことが好き。散歩中「こんにちほ」と明るく声を掛けられたことが最近うれしかったことだそうです。

以前、夫が和楽器の修理と販売を家でしていました。そこへ買いに訪れた役場職員から広報紙などを朗読したテープがあると聞いて利用を始めました。聞き始めて、もう10年以上経ちますが、「今度は何だろうな」と毎月楽しみにしています。

うぐいすの会の皆さんの声は聞きやすく、内容がはっきり分かります。広報きくようでは、おめでたの欄が好き。いろんな名前があって楽しいです。

今は家の中で過ごすことが多いので家事をしながら聞くことが多いです。ごみ出しの方法が変わったときなどは、何回も繰り返し聞きました。

情報を知るには声や音が頼りです。テレビでは全ての情報は伝わりません。広報きくようや議会だよりのテープでは、まちの今の情報を知れるのでありがたいです。テープのことを知らない人もいます。もっとたくさんの人に聞いてほしいですね。